

2024年のみなと基金申請件数

2024年度(2024年4月～2025年1月8日時点)の、みなと基金への新規申請件数と対応状況は以下のようになっています。

申請：13件 ▶ 給付済：7名
検討中：2件 ▶ 合計給付金額：49.5万円
見守り継続：3件
解決ほか：1件

昨年に続きD×Pさんとの連携案件が多かったですが、その他のルートや他団体からの相談も幾つか見られたことや、一度あたりの給付金額が大きい案件も多いのが特徴でした。

金額が大きいものは一部給付では解決しないパターンがほとんどであり、給付しない場合には大学の除籍など、人生における一つの道が閉ざされることに直結するので非常に悩ましいです。

単発の給付では解決の見通しが立たず、やむなく給付断念をした例がありました。

逆に、通常なら救済措置がないようなケースでも、D×Pさんと役割分担をすることで給付に踏み切れることもありました。

全てに対応することは出来なくても「決して無力ではない」こと、その力を皆さんからのご寄付により得られていることは、何度でも強くお伝えをしたいことです。

長い振り返りにお付き合いいただき、ありがとうございました！

異色な取り組みの多いみなと計画ですが、次のステージでなにに力を入れていくべきかに確信めいたものも持てたように思います。一年後、共に航海をつづけてくださるあなたへ、今度はどのような成果をお見せできるだろうかといまから楽しみにしています。今後ともみなと計画をどうぞよろしくお願いいたします。



NPO法人みなと計画事務局
北海道江別市大麻東町13番地48 きりんビル1階 江別港/menkoiya 内
Mail：minato-info@minapla.com
TEL：011-398-9684(menkoiyaです！と出ます)



Web



note



X (旧Twitter)



Facebook



NPO法人みなと計画

2024年の活動の振り返り

2024年は、みなと計画「らしさ」が明確になるための一年だったように思います。

これまでみなさんと航海を行うなかで、みなと計画が大切にしてきた「ひとりに向き合う」を軸に行ってきた取り組みが深海熟成されることで「らしさ」になったと感じています。

では、どんなことがあったからそうなったのか？ ダイジェストで振り返っていきたいと思います！

1月 じっくり丁寧に

来年度のチーム体制に向けての面談

EBETSUtoやみなと計画事務局を担うスタッフと個別の面談を行いました。

お一人ずつ1時間～2時間かけてお話しをしますが、大切にしたのはこちらからの一方的な説明ではなく、これからどう生きたいかをじっくりゆっくりお話しできる時間をつくることです。

その結果、自ずとEBETSUtoやみなと計画に関わる道が見えたのなら、ぜひまた一年一緒に歩みましょうというお誘いをしました。

若手作家の作品のバーでの展示に向けて

若手作家の作品を店舗などに展示する通年型のプロジェクト「PORT OF ARTIST」(以下POA)が23年暮れから水面下で動いていました。

プロジェクトのリリースに合わせてこけら落とし企画を行おうと考え、みなと計画役員の紹介で札幌のAサインバーさんへ初訪問。

若手作家の応援にこんなにご理解のある方と出会えたことは、このプロジェクトを進める自信にもなりました。



2月 ものごとが動く瞬間の設計

説明会と顔合わせと

POAにご登録を希望する作家さんへの説明会や、希望される登録作家さんに展示会場となるAサインバーをお引き合わせする会を開催。

バーのオーナーさんと作家さんがお会いするための調整はもちろんひと手間かかりますが、「想いを言葉にして説明すること」を大切に、「直接お会いして話しをする時間」を丁寧にすることはこだわりたいと思っています。その意味を充分に感じられる場となりました。

3月 他団体連携

連携給付

23年から力を入れてきました他団体連携を24年はさらに進めていくことになりました。
コミュニティワーク研究実践センターさんとは、若者の住まいをサポートする「ユースサポートハウス」で、利用される若者への基金の給付で連携を行いました。

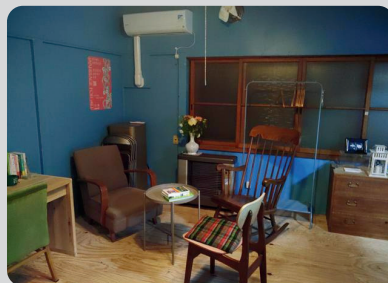
4月 ”全ての若者”を視野に入れるために

W(ダブル)マイノリティの社会的居場所「はこにじ」オープン

昨年度から北海道NPOファンドさんと連携してスタートした、Wマイノリティ（性的マイノリティになんらかの障がいも合わせ持つ方）の社会的居場所構築事業ですが、道内は函館、札幌、釧路の3団体を採択し伴走サポートを始めています。

みなと計画は函館で活動を展開する「にじいろほっかいどう」さんの担当となりました。

にじいろほっかいどうさんは、物理的な拠点を構築して心理的に安心できる居場所を整えながらさまざまなサポートや情報発信を行う内容で、古い長屋の一室をお借りして、リノベーションを行い誕生した「はこにじ」（写真ははこにじさんの一室です）では、すでに多くの方とのつながりが生まれ、場の持つ力を感じさせられています。



5月 率直に意見を交わす場

みなとの総会

みなと計画に関わる会員であればだれでも参加できる「総会」を開催。
なかなか顔を合わせて意見交換する機会がないなか、直接事業成果のご報告や次年度の事業計画をご相談できる年に一度の場です。

こちらの試みがうまく機能しているのか？ ここはもっと工夫の余地がないかなど、さまざまな角度からご意見をいただきます。ここでいただいたご意見から生まれる取り組みもあり、もっと多くの方にご参加いただける場にできればと考えています。

12月 つながりを用意する

まちなかアート月間クロージングの会

足掛け約半年かけて行われたえべつまちなかアート月間も無事に終了しましたが、もうひとつの意地として、これまでちゃんと開催してこれなかったクロージングの会を開催しました。
実は展示作家さん同士だったり、展示会場以外の人だったり顔を合わせられる機会は会期中ほとんどありません。

しかし、若手作家さんのニーズとして、他の作家さんとの交流を求める声は多く、これだけ多くの作家さんが関わった企画でそのような場を設けないなんてもったいない！と考えていました。

もちろんこれはこれで手間かかりましたが、やはりやって良かったと思える場になるのです。



一生もののつながりを若いうちからいくつ作ることができるか、それを意図できる社会になれるか、それが大事なんだろうなと思うのです。

note みなと計画のnoteをフォローしてみませんか？

昨年度からみなと計画では、これまでの経験で得られた知見や、そのときの取り組み内容の詳細を、noteに掲載しています。いろいろな方にお読みいただきたいと思っていますが、まずはなによりも日々応援してください。

この一年ほどに掲載したタイトルの一覧を掲載しますので、ご興味のある内容がありましたらぜひご覧ください。



記事タイトル & 概要

「この4年」	～ 若者にとってコロナ禍とはなんだったのか？
「お名前をお呼びするということ」	～ 若者のお名前を呼ぶことの意味について
「人前で話すということ」	～ 少し毛色を変えて活動上で大事にしているスキルのおはなし
「普通でいい」	～ 若者のいう「普通」ってなんだろう？
「”沈黙もまた答えです”では抜けられないトンネルもある」	～ でもあきらめない！という心
「”執着”ではないかを問い続ける」	～ もっとも厄介な執着についての考察
「推しポのはなし」	～ 孤独孤立対策に「推し活」で本気で挑むことのワケ

話すその3：POA作家飲み会

展示内容を月替わりにする3か月に渡る展示会がAサインバーさんで開催。
それぞれその月に展示する作家さんを囲んで飲む会を企画しました。
やろうかどうか迷いましたが、やはりこれをやらないと意味がないと思い実施しました。

作品についてやこれからの作家活動のことなど、ふだんは組み合わされない者同士の化学反応が楽しいお話しの時間になりました。

交わらない線を交わせるのは、それがどんなに小規模でもパワーが必要ですが、そうして生み出される場には魂が宿るものです。



8月 あの手この手で接点を模索

推し活で若者の孤立孤独を予防できるか？

内閣府が公募をしました「令和6年度地域における孤独・孤立対策に関するNPO等の取組モデル調査」に、「推し活」を切り口に若者の孤独孤立を地域で予防しようという内容で応募したらまさかの採用！

中間報告会でも「こういう切り口が新鮮！」と好評をいただいています。こちらの取り組みの詳細は右QRコードのnote記事にも記載させていただきます。



note記事は
こちらから→



まちなかアート月間説明会

3回目で新たな試みも多かった「えべつまちなかアート月間」ですが、今年から取り入れて良かったと思うものに、応募を考えている方に向けた「事前説明」があります。

ワンクッションこの説明会を入れたのは、この説明会自体がその方との接点となって、今回応募にいたらなかったとしても、こちらの想いがどこに残るのではと期待したからです。

また、至れり尽くせりのサポート体制に「あやしいのでは？」と怪訝に思われる方も少なくないとお聴きしていたため、その理由を事前に説明しておくことも必要と感じていました。

9月 会いに行く

四大学を旅するカフェ@EBETSUto

5年度目となる江別の大学生コミュニティ「EBETSUto」の活動では、毎年大学にお伺いをして説明する機会を多くいただき、今年度は特に多く、延べ1000名以上の大学生にEBETSUtoについて説明をさせていただきました。

しかし、実際に活動に興味を持って参加するのはそのうち15名ほど。説明会の小規模なグループワークでお話しをしたときに感じたのは、興味があっても参加するまでのハードルが高いということです。それを超えるために「こちらに出向いてもらう」のではなく「こちらから大学へ出向く」ことで、何度も顔を合わせて信頼関係を作ってから一緒にまちに出ようとお誘いをするアプローチを企画しました。その企画内容は、大学内に一日限定のカフェ空間をつくる「旅するカフェ」を開催するというものです。

当たり前ですが、ただ待つよりも何倍も多くの方と接することができる実感できました。この一回でどうこうなるものではありませんが、当たり前をためらわずに行うことの重要性を認識しました。



10月 意地

まちなかアート月間スタート

先にも触れたように、多くの作家さん、会場との調整が必要になったアート月間ですが、そうした苦勞をせずに もっとシンプルに運営する方法はもちろんありました。

それでも「作家さんと一緒に現地に一度は足を運ぶ」という一番労力のかかることは絶対に譲りませんでした。

会場を見る、そこの方と直接お話しをする、このプロセスにこそ価値のある企画であり、それがあかないかで作家さんの得られるものは雲泥の差になると思いました。

みなと計画が大事にしたいことはつまりここに労力をかけることだよ、ね、を体感できる日々でした。

なお、アート月間終了後にPOAへの登録希望者が5名も現れたのは、こうした試みの結果だろうと思っています。



会員さんとのお話し

そんなさなか、みなと計画マンスリークルーの方から、近くを訪れるのでお会いしませんか？とお誘いをいただきました。

ちょうどまちなかアート月間の現地下見もあり、活動現場をご覧いただくことができました。

その会員さんからは、みなと計画の行っていることの意味を会員にどのように伝えられるかや、会員が応援していて良かったと思えるための方法など、ご意見をいただきました。



こうした率直なご意見をいただけることはやはり貴重であり、再度お話しをさせていただくこととなりました。

11月 他者から学ぶ

D×Pタイムスにコメント寄稿

D×Pさんが発行されている「D×Pタイムス」に、連携してサポートにあたらせていただいた若者の記事が掲載されることになりました。それに合わせてコメントを掲載させていただきました。

取り組みを丁寧に定期刊行物として積極的にリリースしていくことの重要さや、他団体の顔もしっかり見えるようにしていく姿勢には学ぶところが多いです。

コメント寄稿記事
はこちらから↓



～本編に貼り切れないみなと計画の日々～



6月 始動とリリースと

えべつまちなかアート月間始動

3年目となる同企画に引き続き事務局として参加。

2年目に出された意見も踏まえ、1点からでも参加できるテーマ展示会場の設置やスタンプラリーが取り入れられることになりました。

その結果、総勢約30名の作家さんのご出展と、16の展示会場のご協力をいただくことになり、過去最大規模の同時調整を行わなければならなくなりますが、このときはまだ知る由もなく。

POAリリース！

そして同時進行でPORT OF ARTISTもリリース！ こけら落としとなる琉球居酒屋「島人の宝札幌北7条店」における7月から9月までの3か月連続展示の内容も公開されました。

アートは門外漢なみなと計画が若手作家のサポートを行うプロジェクトを公開するにあたり、慎重な調整を行ってきましたが、世に向けてリリースするのはやはり緊張感のあることでした。

7月 話す話す話す

話すその1：D×P代表今井さん

10代を主とした若者の孤立を防ぐ取り組みをされる大阪拠点の団体「NPO法人D×P(ディーピー)」さんとの連携も1年以上経過するなか、代表の今井さんがご来道するタイミングで初めてお会いすることができました。

今後はさらにこの関係を広げて北海道内の団体・企業とも連携をして、より広範囲で充実したサポート活動を展開する予定です。



話すその2：ezorock代表草野さん

道内随一の経歴と実績を持つNPO法人ezorock代表の草野さんとは、北海道外の同種の団体との連携の促進についてお話しをしました。

いくつかご縁をいただいた団体を例に構想を説明しましたが、まだまだ煮詰めないとならない部分があることを実感しました。

こういう構想段階からフランクに意見を伺える仲間がいるのはありがたいことです。